

# 筑後市社会福祉協議会（福岡県）

## ひきこもり者を支援しない支援 「ために」から「ともに」



ひきこもりフリースペース&  
内職シェアスペース「ふら  
っとスペース」の様子。

### 1. 基本情報

|                        |  |
|------------------------|--|
| ①自治体・団体名               | 社会福祉法人筑後市社会福祉協議会   |
| ②住所等                   | 〒833-0032 福岡県筑後市野町 680-1   |
| ③圏域の人口、高齢化率            | 人口：49,447人 高齢化率：27.06% *2020年3月末現在   |
| ④生活困窮者自立支援法に基づく事業の実施状況 | なし   |
| ⑤主な事業・活動（④以外）          | <p><b>高齢者の福祉</b>（①介護家族の会コスモス支援②介護講座開催③もえもんサービス 他）</p> <p><b>障害者の福祉</b>（①障害者問題セミナー②きょうだい会/ひまわりのつどい/育成会への支援③かたるーむ開設 他）</p> <p><b>子どもの福祉</b>（①地域食堂、子どものひろば等への支援②子どもの遊び場遊具助成 他）</p> <p><b>ひとり親家庭の福祉</b>（①学習支援②くろーばへの支援③母子寡婦福祉会の支援 他）</p> <p><b>生活困窮者の福祉</b>（①短期資金貸付②たすけあい援助金③フードバンク④サルビアの会の支援⑤ふらっとスペース 他）</p> <p><b>小地域福祉活動</b>（①校区福祉会活動②福祉員制度/校区座談会等③地域「イ・ベ」支援 他）</p> <p><b>ボランティア活動の推進</b>（①講座②相談応需③Vo 連支援④ふれあいひろば⑤災害対策マニュアル・災害 VOC 協議・研修 他）</p> <p><b>福祉教育の取り組み</b>（①市民福祉のつどい①各種講座②社協だより③小学校福祉教育の支援④福祉教育教材・読本配本⑤実習生の受入れ 他）</p> <p><b>善意奉仕銀行</b>（①善意の受入払出②車いす・バゲッジ用品の貸出③ボランティア保険の加入 他）</p> <p><b>心配ごと相談事業</b>（①相談室開設②ひきこもり家族相談会 他）</p> <p><b>受託事業</b>（日常生活自立支援事業、点訳音訳事業、重度移動困難者外出支援サービス事業、児童協事務、生活福祉資金、地域学童保育所事業、生活支援体制整備事業）</p> <p><b>共同募金筑後市支会の取り組み</b></p> <p><b>在宅福祉部門の取り組み</b>（居宅介護支援事業/ホームヘルプサービス事業/訪問入浴サービス/障害児・者相談支援事業ちくたくネット/地域包括支援センター地区移行事業/第2層生活支援センター業務/認知症初期集中支援チーム業務/生きがい活動支援サービス事業 他）</p> <p><b>筑後市総合福祉センターの運営</b></p> |

### 2. 取り組みの経緯・背景

・ひきこもり状態であった青年が地域の高齢者や農家とのお手伝いを通じて、元気になっていく姿を見て、「ひきこもり=支援対象者」ととらえ続けるのは、本当の意味では支えられないのではないかと考えた。

- ・筑後市社協では各種当事者団体の組織化を実施してきた中で、「同じ立場だからこそ分かり合える」という場面を多く目の当たりにしてきた。そこで、ひきこもり者支援も同様に第1歩として家族が安心して話せる場の設定を行うことから始めた。
- ・同時に、ひきこもり支援が自己責任論で終わらないよう、“ひきこもらせている社会の側”の課題も意識してきた。20年前と比べ今では家族が認知症であることを言いやすくなったように、5年10年後にひきこもりのことを言いやすくなるために、地域住民の理解促進の取り組みも進めている。その中では、社協内の小地域福祉活動や福祉教育の取り組みと連動して取り組んできた。
- ・「1や2を積み重ねて、100に近づけていく」という精神で、少しずつひきこもり支援のメニューを増やしてきた。

### 3. 取り組み概要・実施体制

#### ●ひきこもり家族会の組織化（2014年～）

家族会「サルビアの会」を結成し、毎月1回実施する定例会では、互いの悩みや思いの共有や本人へのアプローチを参加者と一緒に考えている。

#### ●フリースペース&内職シェアスペースふらっとスペースのオープン（2016年～）

自宅から外に出る機会が少ない方、ひきこもりがちの方、人との会話が少なさ、長期間仕事に就けていない方などが、“ふらっと”来れる場所として、筑後市総合福祉センター内の一室に2016年4月からオープン。

#### ●もえもんサービスのスタート（2017年～）

地域の高齢者には「若者に就労体験の場を提供してください」と依頼し、ひきこもり本人には「草取りやゴミ出しなどに困っている高齢者の支援をしてほしい」と依頼し、誰もが支える側になれるサービスとして2017年から開始した。

#### ●ひきこもり家族相談会のスタート（2018年～）

ふらっとスペース、家族会、もえもんサービスなど、紹介できる支援（「出口の入口」となりえるサポート）をつくり、相談会はその後にスタートした。（毎月1回実施）

#### ●関心が理解に、理解が支援に

- ・校区福祉会（地区社協）での研修会でひきこもり支援をテーマにした。以降、各地域の会議等ではひきこもり支援について話題にするよう努めている。
- ・「若者サポーター養成講座」を開講し、60名を超える住民が参加。
- ・民生委員・児童委員の協力で「ひきこもり調査」を行い、調査を通して民生委員にひきこもりの課題について関心を持ってもらっている。
- ・毎月発行している社協だより（全戸配布）でも、毎月必ずひきこもり支援について何かしらの情報を掲載している。

### 4. 成果や課題、今後の展開

- 当市社協にはひきこもり者支援の専任職員がいるわけではありません。高齢者福祉や障害者福祉、災害支援、福祉教育等の他（多）分野横断的に各職員が知恵を出し合いながら、柔軟な思考で取り組みを創造（想像）してきました。ひきこもり者支援をひきこもり者支援だけで考えるのではなく、今の社協なら何ができるか？を考えることが重要だと思っています。
- とはいえ、家庭訪問もできるひきこもり支援の専任職員設置は必要不可欠です。行政をはじめ様々な情報交換を行いながら、体制を強化していく必要があります。